

# ぬまた未来共創会議記録



ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える  
日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403

# ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403



## 会議の概要

### ぬまた未来共創会議

「ぬまた未来共創会議」は、持続可能な価値ある沼田を市民の皆さんと「共創」（きょうそう）する沼田市の新しいチャレンジです。



【ぬまた未来共創会議Vol.5】

沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

地域ならではの「情報」で人と人とをつなぐ

開催日時 令和5年9月27日（水）午後7時～ 場所 テラス沼田4階・防災会議室

参加申込  
【7/27:9/15】 市ホームページからの申し込み、または沼田市企画政策課の窓口で配布している申込用紙で申し込み。（オンライン参加可）

対象者 市内に居住する人、市内に勤務する人、または市内に通学する人

【お問い合わせ】 沼田市総務部企画政策課  
Tel:0278-23-2111 Fax:0278-24-5179 Mail:kikaku@city.numata.lg.jp



## ぬまた未来共創会議Vol.5

### テーマ

沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

### 概要

地域密着型の情報を発信する地域メディア。地域新聞や地方ラジオ局、地域情報サイトなどの代表的なメディアのほか、最近ではSNSを活用したのも注目を集めています。単なる情報の発信だけではなく、地域の人と人をつなぐ役割も果たす「地域メディア」沼田市内の人と人をつなげるメディアの構築に必要なことは何でしょうか。グループワークを通じてアイデアを出し合い、ぬまたの未来を創造するヒントを探します。

### 日時

令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分

### 場所

テラス沼田4階／防災会議室403

次第	内容
開会	会議の開始を宣言します。
挨拶	沼田市長 星野 稔
資料説明	本日の流れを説明するほか、関連するデータの紹介、テーマの提案者からテーマ選定の想いをお話いただきます。
グループワーク アイスブレイク	『「実は」自己紹介』という特別な自己紹介を行います。
グループワーク 意見交換	ブレインストーミング形式（グループのメンバーで同じテーマについてアイデアをたくさん出し合うこと）でグループワークを行います。
各班発表	各班で出た意見の共有を行います。（質疑応答もあります）
市長所感	沼田市長 星野 稔
閉会	会議の終了を宣言します。

### 出席者

計15名（グループワーク参加者のほか運営、オブザーバー等含む）

# ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403



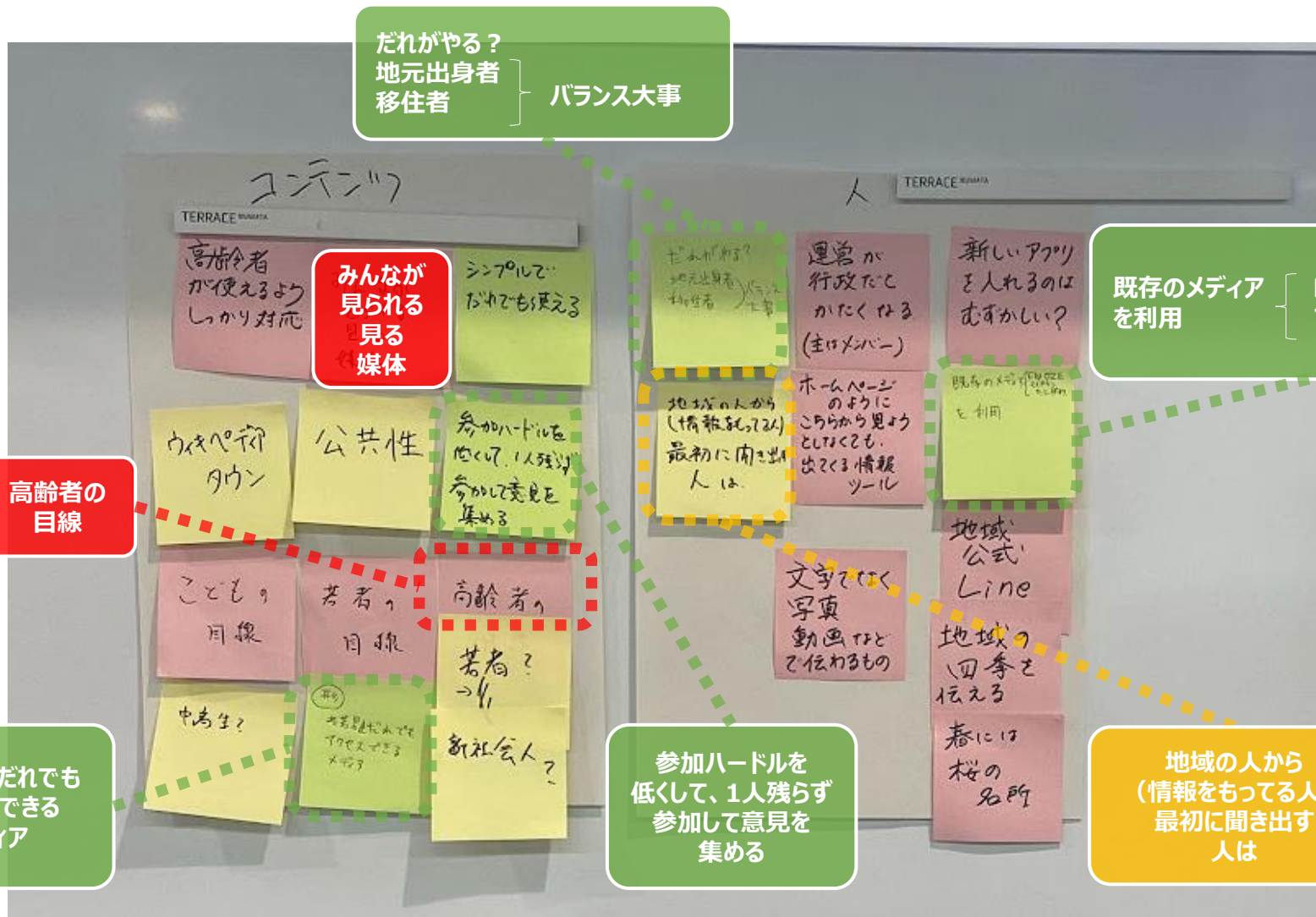
## グループ1ホワイトボード全景





グループ1ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。







グループ1ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。





## グループ1のキーワード一覧

### コンテンツ

- 高齢者が使えるようしっかり対応
- みんなが見られる 見る媒体
- シンプルでだれでも使える
- ウィキペディアタウン
- 公共性
- 参加ハードルを低くして、1人残らず参加して意見を集める
- こどもの目線
- 若者の目線
- 高齢者の目線
- 中高生？
- 形 老若男女だれでもアクセスできるメディア
- 若者？
- 新社会人？

### 人

- だれがやる？ 地元出身者 移住者 バランス大事
- 運営が行政だと かたくなる（主はメンバー）
- 新しいアプリを入れるのはむずかしい？
- 地域の人から（情報をもってる人）最初に聞き出す人は
- ホームページのようにこちらから見ようとしなくても出てくる情報ツール
- 既存のメディア FM-OZE マイタウンたにがわ を利用
- 文字でなく 写真 動画などで伝わるもの
- 地域公式LINE
- 地域の四季を伝える
- 春には桜の名所

### のために

- Input中心のメディア
- メディアを持続させるには お金問題 時間問題
- 自分から発信できない（しない？）人の声を知りたい
- イベント参加がしやすくなる記事
- SNSの利用 ライター養成講座
- 森林
- いろんな人がライターになれる
- ぬまた未来共創会議を拡大したメディア
- 地区の昔を知る人も・・・ まつり地区の分を知る人につなげる
- ブレインストーミングのようなSNS
- カルタ
- 命名「FUSEN」
- 市内の人の見えない壁をなしにする



## グループ1の発表要旨

- まず、地域メディアは、全員が見られたり、ライターのようなことに簡単に取り組み、参加ハードルが低く、誰一人取り残さないものであるべきとの意見が出た。具体的には、人に焦点を当てると、子ども、若者、高齢者もいる。その誰もが使いやすい、アクセスしやすい媒体を考えていく必要がある。
- 人という面から言えば、新しいアプリなどを導入するのは、高齢者のことを考えた時に難しいかもしれない。公式LINE、FM-OZE、マイタウンたにがわなどの既存メディアを使うことも一つの手ではないかとの意見があった。
- メディアのコンテンツについては、地域密着の情報、例えば、今はこの桜が見頃といった情報も必要であるし、地域に住んでいる若者や新しく地域に住み始めた移住者などにとっては、その土地の歴史などなかなか自分一人では知り得ない情報もあるとよいとの意見があった。
- 地域メディアの運営が行政だと堅くなってしまいうイメージがある。そうした意味で誰が運営していくのか、また運営者は、地元出身者もいれば、移住者もいて、高齢者も若者もいるなど、バランスが重要。
- インプット中心のメディアがよいとの意見があった。例えば、人に帰属している情報で、今まではその人とのつながりがなかったことから知り得なかった情報を知ることができるようなメディアがよい。
- 単に、こういうイベントがあるよということではなく、そのイベントの背景や、イベントに出ている人のこと、そしてその場所の歴史なども知れるようなメディアがよい。
- いろいろな人がライターになれるというところでは、ライターの養成講座などがあると入口になり、メディアを使う人が増えるのではとのアイデアがあった。
- 具体的に出たアイデアでは、ぬまた未来共創会議を拡大したようなメディアがあればよいというものもあった。今日グループで実施したブレインストーミングのような形で地域のことや必要なことが知れるメディアやSNSがあればよい。名前は「FUSEN」。
- 沼田市内の人同士の見えない壁がないメディアだとよい。





# ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403



## グループ2ホワイトボード全景

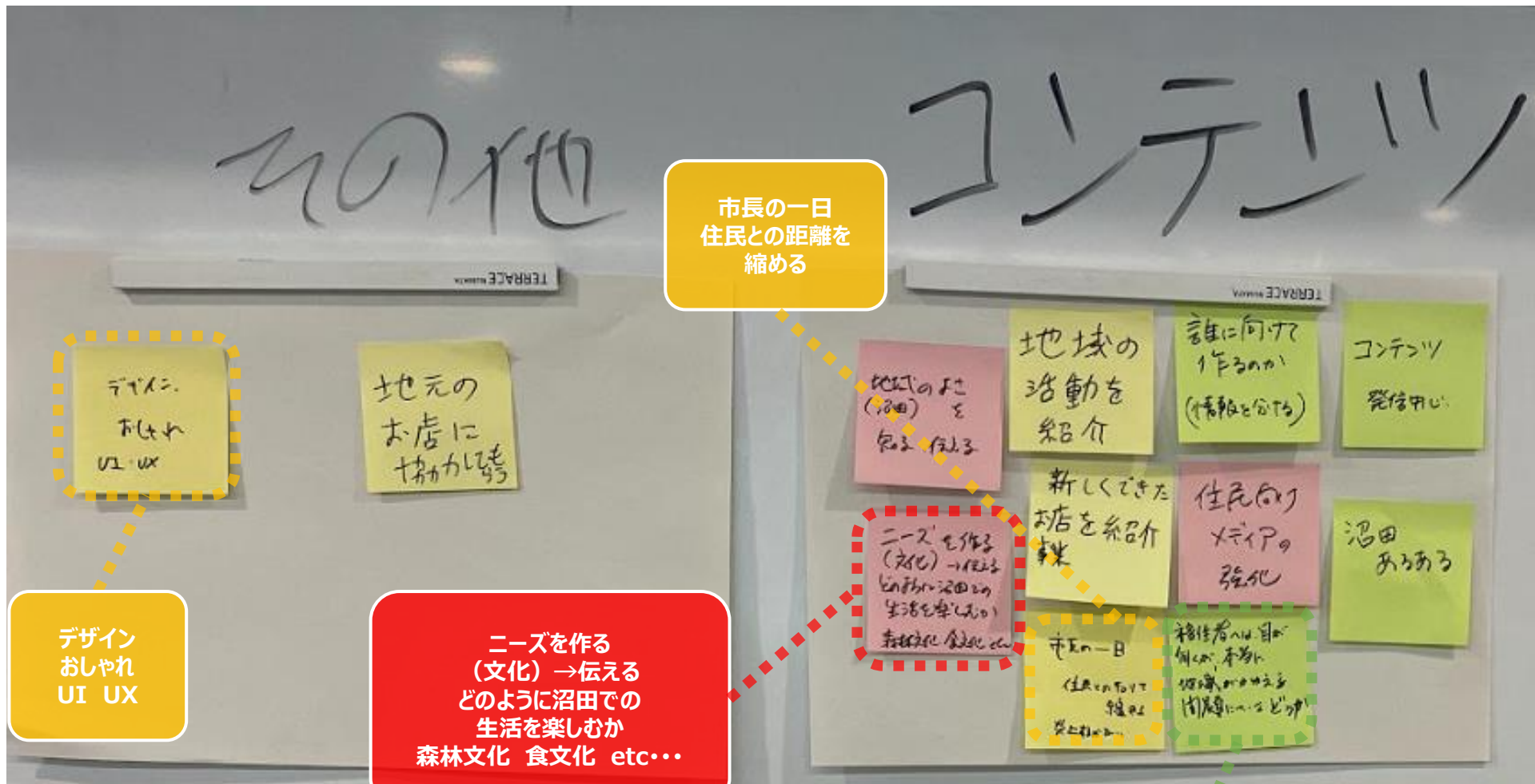






グループ2ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。





グループ2ホワイトボード詳細

※画質の都合上、一部付箋の内容を補記しています。

### 双方向

小中学校の  
Home & School  
のような  
双方向の  
通信アプリ

集計コンテンツ  
スレッド

コピペ  
コピペ  
\*出典

世代間  
交流

手軽な情報  
発信  
スレッド  
レス

メディアボード  
主に高校生向け  
双方向  
テラス1Fなど

### 発信

地域  
編集員  
(委員)

書きたい  
人が記事  
を書ける

チャンネルは多く  
LINE、Facebook  
インスタ、X  
YouTube、ショート

note

高齢層に向けての  
発信は？  
お年寄りの方へ

ケーブルテレビについては  
情報を映像化  
などのスタッフ



## グループ2のキーワード一覧

### その他

- デザイン おしゃれ UI UX
- 地元のお店に協力してもらう

### コンテンツ

- 地域（沼田）のよさを 知る 伝える
- 地域の活動を紹介
- 誰に向けて作るのか（情報を分ける）
- コンテンツ 発信中心
- ニーズ（文化）を作る→伝える どのように沼田での生活を楽しむか 森林文化 食文化 etc
- 新しくできたお店 事業を紹介
- 住民向けメディアの強化
- 沼田あるある
- 市長の一日 住民との距離を縮める
- 移住者へは目が向くが 本当に地域がかかえる問題についてどうか

### 双方向

- 小中学校のHome&Schoolのような双方向の通信アプリ
- 集計コンテンツ スレッド
- コミュニケーションができる
- 世代間文通
- 手軽なスレッド レス 発信 受信
- メディアボード 主に高校生向け 双方向 テラス1Fなど

### 発信

- 地域編集員（委員）
- 書きたい人が記事を書ける
- チャンネルは多く LINE、Facebook、インスタ、YouTube、ショート
- ケーブルテレビについては 情報を映像化などのスタッフ
- note
- 高齢層に向けての発信は？ お年寄りの方へ





## グループ2の発表要旨

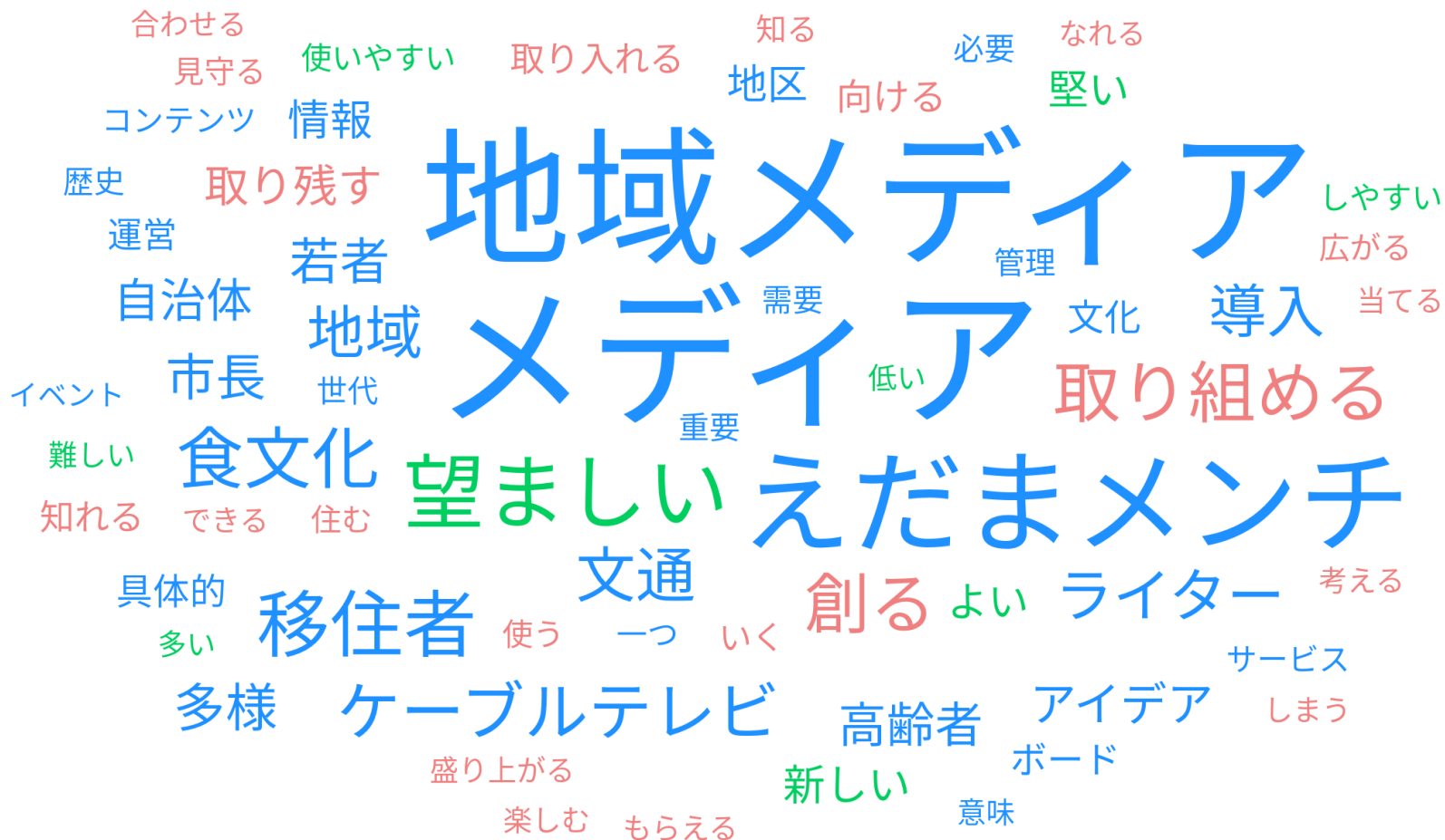
- 移住という面にはよく目が向けられるが、地域の課題や問題については目を向けられていないのではないかという意見があった。地域メディアはそうした地域課題を解決するきっかけのようなものであるとよい。
- 映像コンテンツを配信するための「ケーブルテレビ」の導入に関する意見。また、ケーブルテレビのような新しいメディアを構築する際にはそのメディアの対象をどこに向けるかということをしっかりと考えなければならないとの意見があった。
- 双方向のメディアという点では、学校で使っている「Home & School」の地域版のメディアがあるとよいのではとの意見があった。自治体向けのサービスも最近では充実しており、例えば地図の機能まであるものなどもある。薄根地区ではそうした導入候補の選定までしているが、現在は、市が全域でのサービス導入を検討していくのではと動向を見守っている状況。地域ごとにあれもこれもと入れてしまうよりは、一つ固定のものがあるとよい。
- メディアボードのような、誰もが編集者になれるようなメディアもよい。昔、駅にも伝言板のようなものがあった。各学校での管理や各地区の若者が管理するなどして現代でも需要はあるのではないか。東京でもこうしたメディアボードの運営事例がある。
  
- 文化を創ることも重要。文化を創るというのは、沼田の森林文化をどう楽しんでいくべきか、食文化をどう楽しんでいくのかというようなこと。それが市民全体に広がっていくのが望ましい。例えば、沼田の人はえだまメンチを知っているが、なんで枝豆なのかということはわからないし、えだまメンチが日常の食生活に取り入れられているわけでもない。この意味をみんなが知り、日常的に食べることで、本当の意味での新しい食文化になっていくように思う。
- 情報は自分で取りに行くのではなく、情報から自動的に入ってくるようなメディアのほうが望ましいとの意見があった。
- 世代間文通という文字を使ったメディアのアイデアがあった。多様な世代間で文字を使った文通を行うというのは、今の時代、逆に新しいのではないか。
- すでにnoteを導入している自治体もあるが、沼田市ではまだ。こうした新しいメディアを導入するなど、チャンネルは多ければ多いほどよい。多様なメディアを確保していく必要がある。また、全てのメディアで情報が同じでなくてもよい。例えば、このメディアだったらお店に特化していて、クーポンももらえるなどといったように得意不得意に合わせて情報を選択していくのも一つの考え方。
- 地域の活動や新しいお店の情報などを発信していけるメディアも必要。何よりも盛り上がったのは「市長の一日」。市長のキャラクターを知ることができるコンテンツは、意外と需要があるのでは。





発表要旨のワードクラウド

全班の発表からスコア（単語の「重要度」）が高い単語をAIが複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示しています。単語の色は、品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



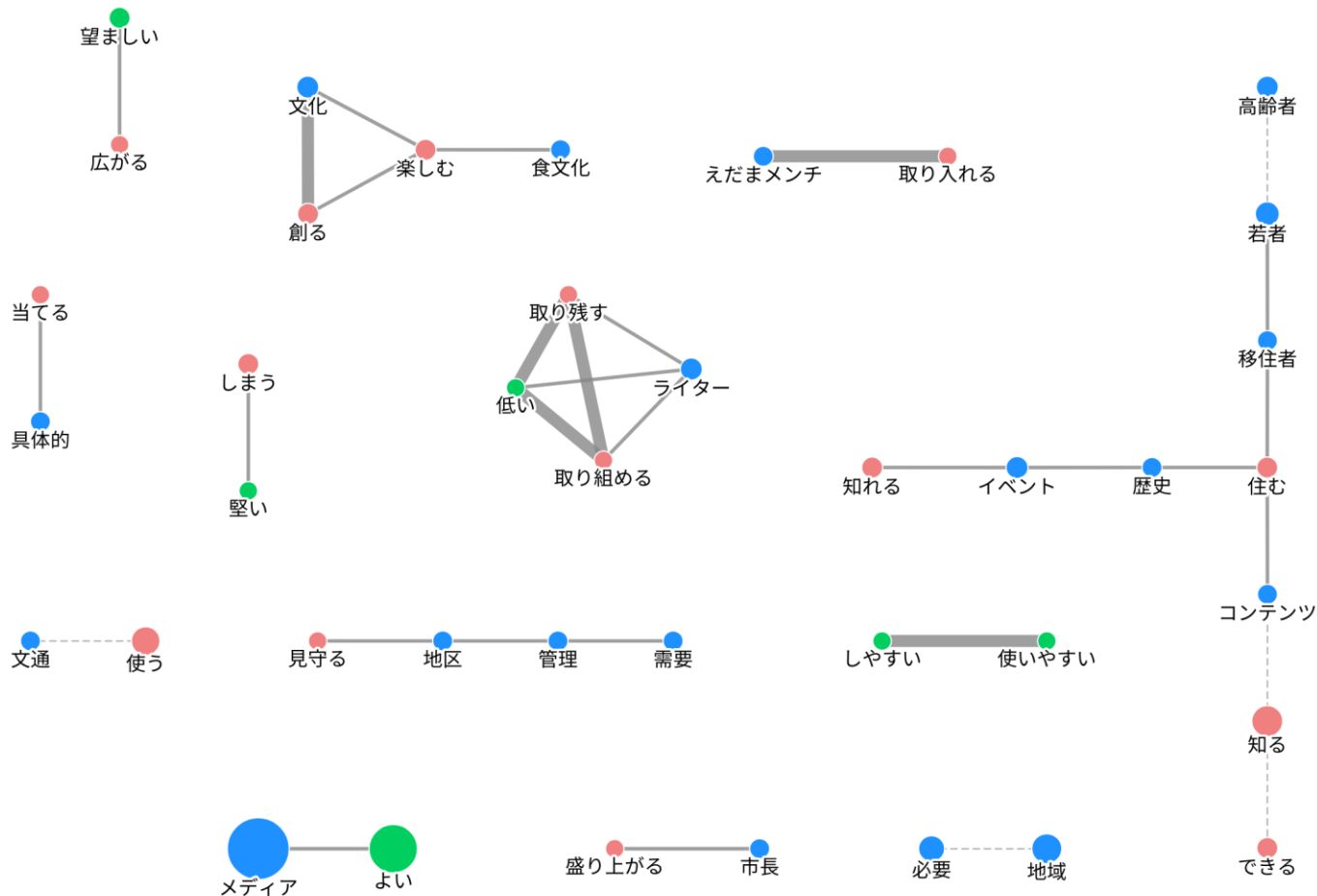
# ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403



## 発表要旨の共起キーワード

共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。共起キーワードは、全班的発表に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図で、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画されます。



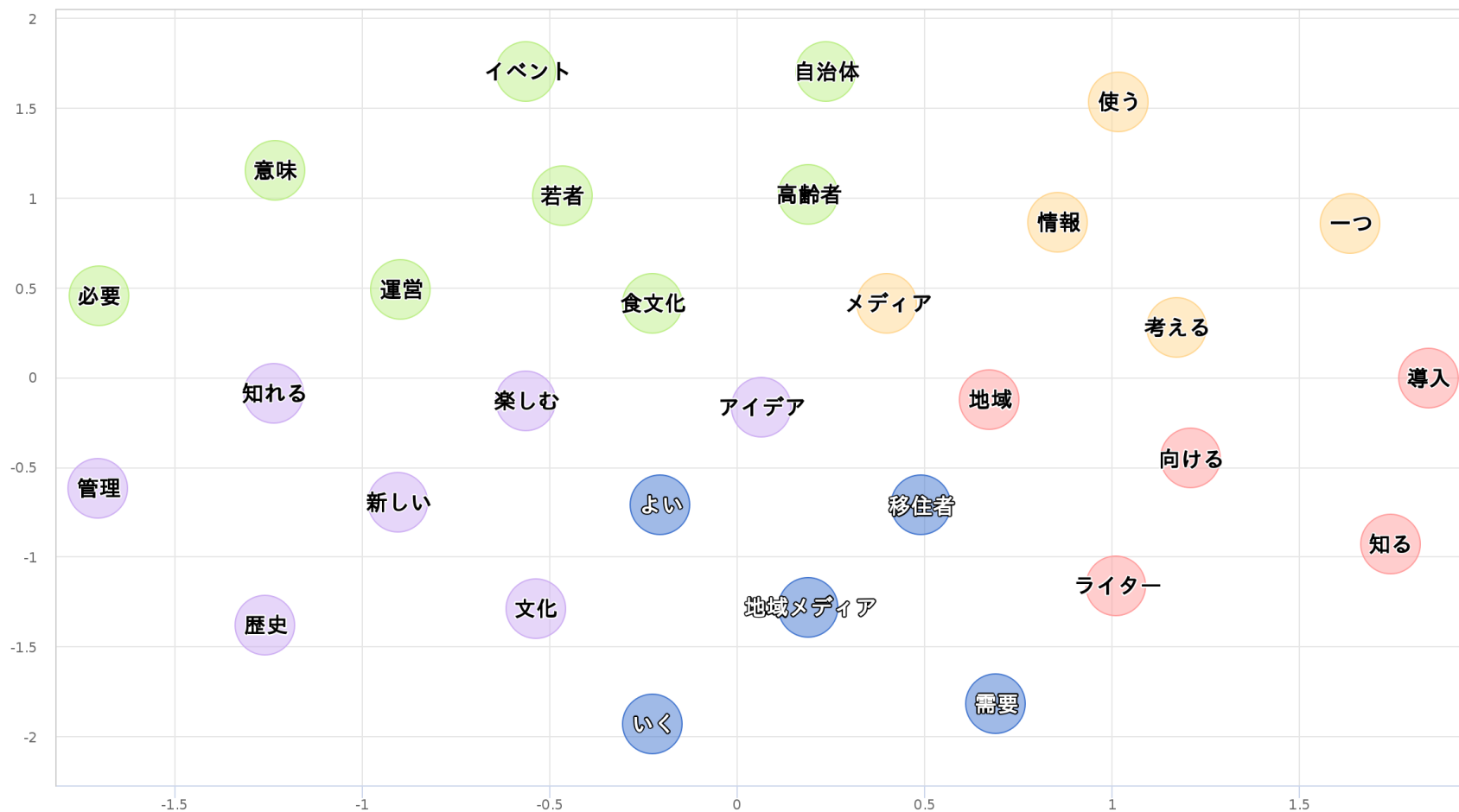
※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析  
( <https://textmining.userlocal.jp/> )





## 発表要旨の2次元マップ

2次元マップは、全員の発表の単語の出現傾向を全体的に俯瞰するためのもので、「近くにある単語同士は同じ場所に出てくる傾向が強い」ということを意味しています。  
(単語の出現傾向が似た単語ほど近く、似ていない単語ほど遠く配置)





## チャット型AIによる解決策提案

チャット型AIに対して今回の各班の意見を共有し、「市の職員になったつもりで意見を述べて」と指示したところ、次のような回答が得られました。

### アクセスと利便性の向上:

地域メディアは全市民にとって利用しやすく、アクセス可能であるべきです。高齢者や技術的に不慣れな人々も含め、誰もが情報を手に入れやすい方法を提供するべきです。これには既存のメディアプラットフォームの活用も含まれます。市内に住む誰もが使える公共施設や地域図書館をメディア利用の拠点として検討する価値があります。

### 運営者の多様性と連携:

地域メディアの運営は、地元出身者、移住者、高齢者、若者など多様なバックグラウンドを持つ人々が協力して行うことが重要です。地域社会全体が参加し、情報提供者として貢献できるプラットフォームを整備する必要があります。市は、地域メディアとの連携を強化し、情報提供や共同プロジェクトに参加することで、地域メディアの発展を支援すべきです。

### コンテンツ多様性:

地域メディアは単なるイベント情報の提供にとどまらず、その背後にあるストーリーや歴史なども探求することが必要です。地域の文化、伝統、特産品に焦点を当て、住民同士のつながりを深めるコンテンツを提供するべきです。また、地域の課題についても取り上げ、解決策を見つけるための情報を提供し、住民の参加を促進すべきです。

### 情報の自動提供:

地域メディアは、住民の興味や必要に合わせて情報を自動的に提供する仕組みを構築すべきです。これにより、住民が情報を追跡する負担を軽減し、必要な情報が簡単に手に入るようになります。このために、個別の設定やカスタマイズが可能なプラットフォームを提供することが考えられます。

### コミュニティ参加の奨励:

地域メディアを通じて、住民同士のコミュニティ参加を奨励する取り組みを強化すべきです。地域のイベントや活動、新しい店舗の情報を共有し、住民同士が連携し、新たな文化を創造できるようサポートすべきです。市長の一日のようなコンテンツも、地域のリーダーシップや文化を広める手段として有効です。

### 情報セキュリティとプライバシー:

地域メディアを構築する際には、住民の情報セキュリティとプライバシーを保護するための措置を講じるべきです。個人情報の適切な取り扱いと情報の正確性を確保するための方針と規制を策定し、適切なセキュリティ対策を実施すべきです。

これらの観点を踏まえて、地域メディアの構築に取り組むことで、沼田市内の住民同士のつながりを強化し、地域社会の発展に貢献できるでしょう。

## ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403

### 記録写真：グループワーク発表の様子





## ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403

### 記録写真：グループワーク発表の様子



# ぬまた未来共創会議Vol.5 沼田市内の住民どうしを繋げる沼田市らしい「地域メディア」の構築について考える

日時：令和5年9月27日（水）午後7時～8時40分 場所：防災会議室403

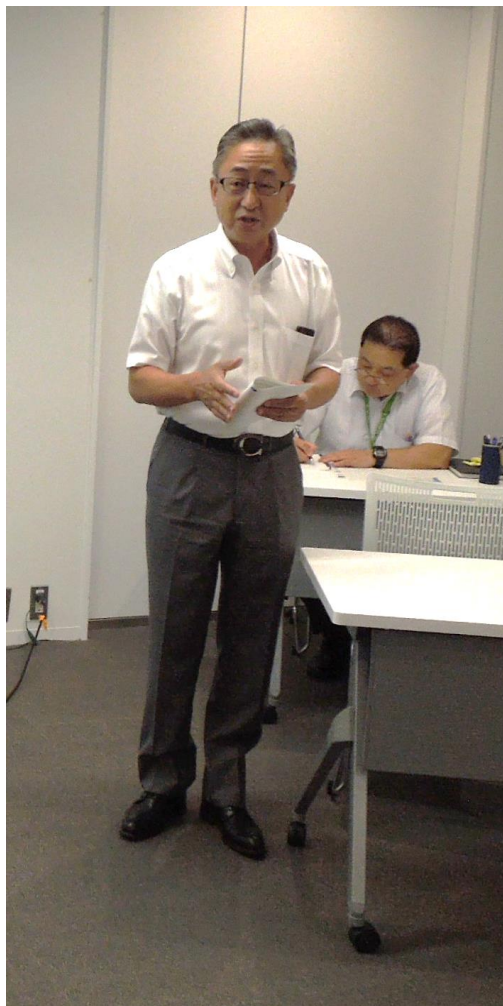
記録写真：沼田市長挨拶







会議記録：市長所感



- 今回のテーマである沼田市らしい地域メディアの構築という点は、今一番行政が手をつけていかなければならない部分だと思っている。そのため、本日は企画の立案をしている企画政策課の職員と、メディア構築時のポイントとなる市民協働課の職員が参加している。
- 発表の中でも触れられていたが、「地域の人たちの力を引き出していくこと」——これを実践しなければならない。どういったシステムでやっていくのがよいのかを考え、ただ、それほど予算がかけられるわけでもない。有効な手段を検討していく必要がある。
- このままでは、移住者にも沼田市が選ばれないということが出てくる。これから、劇的に人口が減ってくる。沼田市も含め、ほかの自治体も。その中で情報をうまく、取りに行くのではなく届けにいくような形で、メディアというものの構築を考えていく必要がある。
- アプリの導入のことは、ストレートにすぐやりますとはいえないことだと思うが、今日の会議が後押しすることと思う。今日は、要所の職員も参加している。私も何かあった時には協議に入りながら、進めていきたい。
- 再度、皆さんにお集まりいただくこともあるかもしれない、その時にはよろしくお願ひしたい。

沼田市長 星野 稔